

日光市環境基本計画重点プロジェクト

平成24年度実施状況報告書

日光市



目次

1	はじめに	1
2	平成24年度プロジェクト別実施状況	1
	(1) 光の環プロジェクト	2
	(2) 水の環プロジェクト	7
	(3) 資源の環プロジェクト	11
	(4) 環境にっこの輪プロジェクト	15
3	今後の取り組み	19

1 はじめに

日光市は、連続する森林地帯が広がり、清流・湖沼・湿原などに代表される豊かな自然環境を有しています。しかし、近年の生活様式の変化により、その存続がおびやかされる状況にあります。

この環境を守り、未来に引き継いでいくために、事業者や滞在者を含む生活者一人ひとりが、環境負荷の少ない暮らし方に取り組むとともに、資源・エネルギーの有効活用を進める必要があります。こうした環境の保全と創造に関する施策を推進するため、市では平成21年度に「日光市環境基本計画」を策定し、また、平成22年度には「日光市環境基本条例」を制定しました。

条例において、毎年度、施策の実施状況を明らかにすると規定しており、これに基づき、日光市環境基本計画のなかで特に「重点プロジェクト」として掲げている事項について、実施状況を報告するものです。

2 平成24年度プロジェクト別実施状況

重点プロジェクトは4分野から構成されます。平成22年度から平成26年度までのファーストステップ期間（第1段階）に推進する項目は全部で44項目あり、平成24年度の実施状況は、「完了」が1項目、「実施」が39項目、「検討中」が2項目、「未着手」が2項目となっています。内訳は下表のとおりです。

	平成24年度 ファーストステップ実施状況			
	完了	実施	検討中	未着手
光の環プロジェクト	0	10	1	0
水の環プロジェクト	0	10	0	0
資源の環プロジェクト	0	10	1	0
環境にっこの輪プロジェクト	1	9	0	2
計	1	39	2	2

(1) 光の環プロジェクト 地球温暖化防止への貢献 ～低炭素社会づくりに向けて～

プロジェクトの目標

市民・市民団体・事業者・滞在者それぞれが、省資源・省エネルギーに取り組み、また、再生可能エネルギーの利用を促進することで、温室効果ガス排出量を削減し地球温暖化防止へ貢献する。

○指標

地球にやさしい行動推進(エコライフ・省資源)

1)地球温暖化防止運動への参加	現状値*	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1."とちぎ発"ストップ温暖化アクション(栃木県事業)への参加者	9,901	人	7,443	23年度から県事業の内容と集計方法が変更され、参加者数を指標として比較することが適当でなくなったため、比較を見合わせます。				20,000
2.ライトダウンキャンペーン参加団体	19	団体	26	9	6			250
2)地球温暖化防止に関する環境学習の推進								
1.地球温暖化防止学習会の開催	6	回	1	1	1			10
	293	人	200	24	30			500

温室効果ガス排出量の削減

3)日光市役所環境配慮率先行動計画の推進								
1.市施設の温室効果ガス排出削減	(H19年度) 29,832 注1)	t	29,249	25,521	26,453			25,357 (15%削減)
2.低公害車(庁用車)保有台数	6	台	注2) 18	19	23			10%
	1.2	%	3.8	4.0	4.9			

注1)平成24年度日光市役所環境配慮率先行動計画点検結果報告書の数値見直しに合わせ、平成19年度及び平成23年度の値を修正しています。これに伴い最終31年度の15%削減の目標トン数も修正しています。

注2)平成23年度の報告書では、平成22～23年度台数に、特殊車両として水素燃料自動車及び電気自動車を含んでいませんでしたが、総合計画の成果指標のカウント方法に合わせ、両車両を含んだ値に修正しています。

4)低炭素社会への取り組み

1.市全域からの温室効果ガス排出削減	(H18年度) 676,853	t	655,908 3.1%削減	739,379 9.2%増				609,168 (10%削減)
--------------------	--------------------	---	-------------------	------------------	--	--	--	--------------------

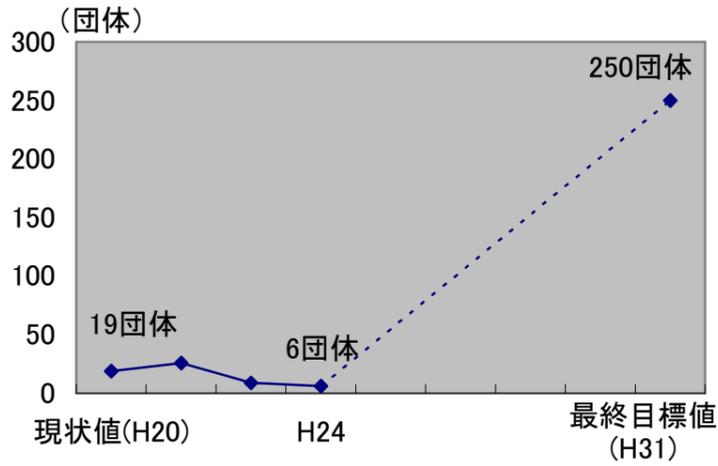
国のデータ公開時期の都合により、現時点で1年度前までしか算定できません。

再生可能エネルギー利用の推進

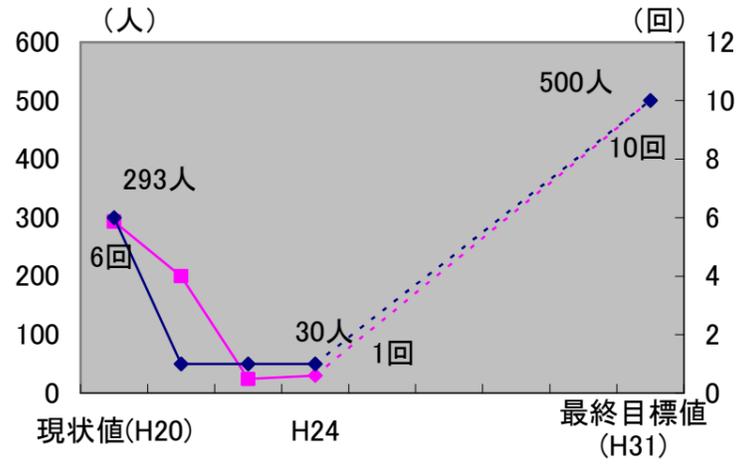
5)太陽光発電システムの導入促進								
1.住宅用太陽光発電システム設置補助数(累計)	111	件	303	462	679			1,255
2.市施設への太陽光発電システムの導入(累計)	1	施設	2	4	4			12
	100	kw	104	254	254			300

現状値*)特に年度記載がない場合は、平成20年度値を採用。以降、いずれのプロジェクトも同様。

【指標名】1-2. ライトダウンキャンペーン参加団体

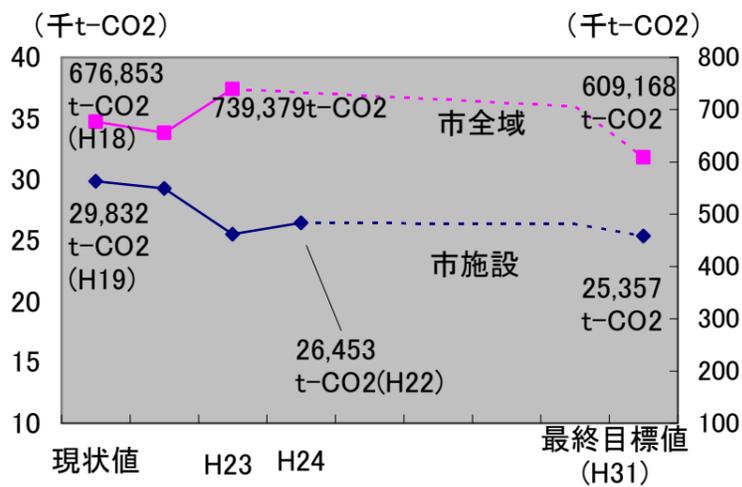


【指標名】2-1. 地球温暖化防止学習会の開催

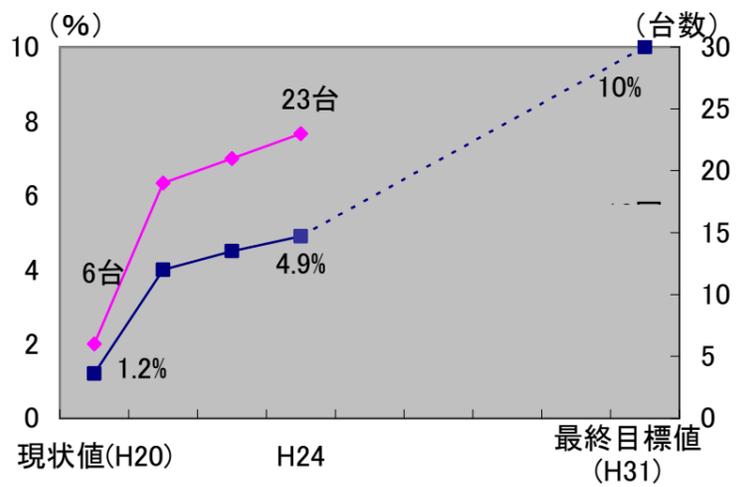


【指標】3-1. 市施設の温室効果ガス排出削減

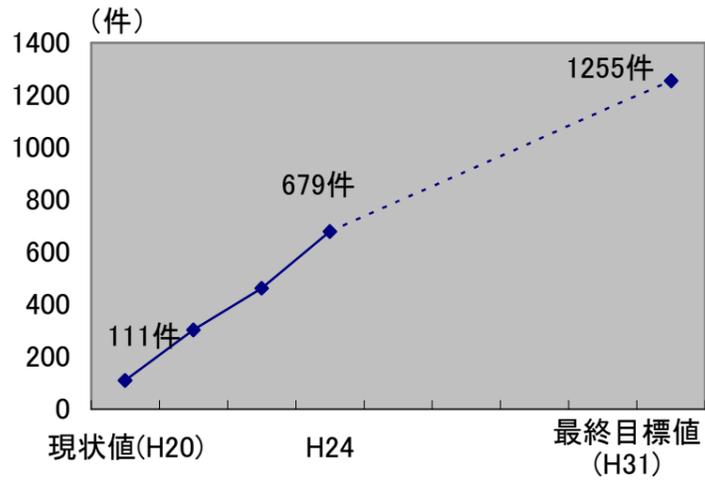
4-1. 市全域からの温室効果ガス排出削減



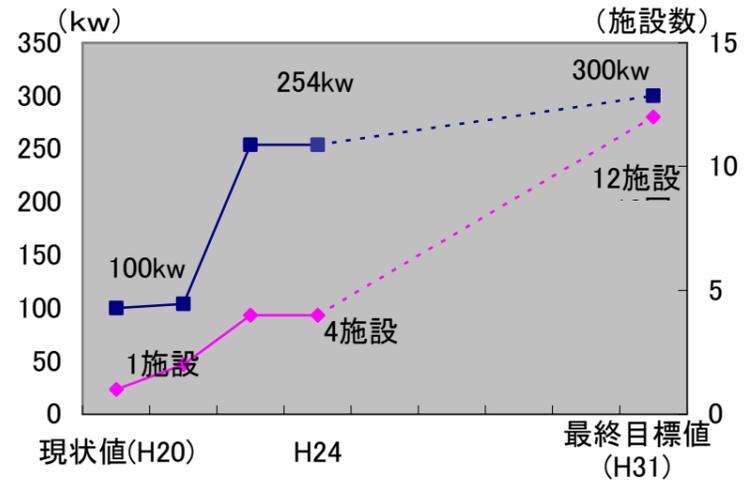
【指標名】3-2. 低公害車（庁用車）保有台数



【指標名】5-1. 住宅用太陽光発電システム設置補助数（累計）



【指標名】5-2. 市施設への太陽光発電システムの導入（累計）



～～ 目標値に対する成果の状況 ～～

おおむね順調に成果が上がっています。特に「5-1. 住宅用太陽光発電システム設置補助数」は最終的には目標値を上回りそうな勢いで伸びています。ただし、次の3指標が低い数値となっています。

・「1-2. ライトダウンキャンペーン参加団体」

事業所等における日頃の節電意識は高いと考えられますが、ライトダウンキャンペーンへの参加団体数が伸びなやんでいます。登録・参加について、商工部門

と連携して、事業所等に積極的な呼びかけを行っていきます。

・「2-1. 地球温暖化防止学習会の開催」

出前講座の要望が少ない状況にあります。学校をはじめ公民館での講座など、教育部門と連携しながら開催機会の拡大を図ります。

・「4-1. 市全域からの温室効果ガス排出削減」

猛暑・厳冬などの気象条件や景気の動向により、排出量が大きく左右されます。国の温室効果ガス対策に注目しながら、市・市民・事業者等それぞれが取り組めることを検討します。

○プロジェクト項目別実施状況

〔ファーストステップ〕

No	項目	進捗及び平成24年度実施内容				
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
1101	“とちぎ発” ストップ温暖化アクションの普及（きっかけづくり）	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●	→	→		
<p>ストップ温暖化アクションの実施主体は栃木県ですが、市が「環境にっこう」で節電行動への協力を訴えるなかで、併せて本事業への参加を呼びかけました。</p> <p>市独自の温暖化対策事業としては、緑のカーテン各種事業を展開しました（ゴーヤの種配布、講座、公共施設への設置、コンテスト）。</p> <p>また、市役所で、6月～9月にかけて「日光市役所節電アクション」に取り組みました。</p>						
1102	エコアイデアの整理・情報提供	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●	→	→		
<p>緑のカーテンコンテストを実施し、16点の応募がありました。応募者の取組記録をもとに、緑のカーテンの作り方の工夫点やその効果についてまとめ、ホームページに掲載し情報提供しました。</p> <p>また、「冬の“うちエコ”運動」を実施し、28世帯76名の参加がありました。参加者から寄せられた冬の節電アイデアを集約して「環境にっこう」に掲載しました。</p>						
1103	ライトダウンキャンペーンの普及（きっかけづくり）	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●	→	→		
<p>環境省が実施するライトダウンキャンペーンへの参加を呼びかける記事を「広報にっこう」に掲載しました。また、市役所内で庁内周知を図り、職員の積極的な参加を促しました。</p>						
1104	太陽光発電（住宅用太陽光発電設置補助、公共施設への太陽光発電施設設置）の推進	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●	→	→		
<p>平成24年度の住宅用太陽光発電の設置補助実績は、217件（23,395千円）で、対前年度比36.5%増の高い伸び率となりました。平成24年7月から、再生可能エネルギー固定価格買取制度が開始されたため、住宅への設置や、メガソーラーの導入が進んでいます。</p> <p>市の施設における設置状況は、次のとおりです。</p> <p>【瀬尾浄水場】H13～,100kW 【リサイクルセンター】H22～,4kW 【湯西川水処理センター】H23～,50kW 【かたくりの湯】H23～,100kW</p>						

No	項目	進捗及び平成24年度実施内容				
	(前頁からの続き)	<p>なお、平成23年度に策定した「日光市庁舎整備指針」の中で、今後整備する総合支所等庁舎には、太陽光発電設備を設置するものとしています。これに従い、平成25年度に新設する足尾庁舎には、太陽光発電設備20kWを設置します。</p> <p>また、栃木県「とちぎサンシャインプロジェクト」と連携し、市内のメガソーラー候補地の受付窓口を設置しています。</p>				
1105	その他再生可能エネルギー利用の検討	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		検討中	実施	→		
		<p>東日本大震災に伴う原発事故以降、再生可能エネルギーへの関心が高まり、国策としても再生可能エネルギーに注力していく状況を背景に、市では、太陽光、小水力、バイオマス等を中心として、市内で再生可能エネルギーの利活用を拡大する手法について、調査・研究を進めています。</p>				
1106	エコドライブの普及(きっかけづくり)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		検討中	→	→		
	EV・PHV* EV・・・電気自動車 PHV・・・プラグインハイブリッド車	<p>市民を対象としたエコドライブの普及啓発事業について、引き続き実施手法を検討中です。</p> <p>栃木県が「EV・PHV*タウン構想」を重点施策として進めていることを受けて、日光市でもその強化を図るため、先にセカンドステップにあたる「低公害車の普及・拡大」に着手しています(詳しくは後段セカンドステップ参照)。</p>				
1107	住宅用高効率給湯器設置費補助など省エネルギー機器補助制度の検討	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		未着手	実施	→		
		<p>市民の省エネルギー意識が非常に高まっていますが、今のところの市民ニーズの中心は、住宅用太陽光発電設備ととらえており、これに重点をおいた施策を進めています。</p> <p>家庭用蓄電池やペレットストーブなど多様な手段について、国内情勢を調査しつつ、太陽光発電設備以外で市民から求められている支援対象は何であるか、検討を進めています。</p>				
1108	とちぎの元気な森づくり県民税の活用	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施	→	→		
		<p>平成24年度中に里山林の整備を72.0ha、平成23年度までの整備箇所を176.95ha実施しました。また、森林への理解促進のため、間伐材等を活用した木工教室や、5校が森林環境学習を実施しました。平成25年度以降も、同様の事業を展開していく予定です。</p> <p>【各学校の事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校植栽環境整備(巣箱設置、岩石園整備他) ・ 学校林環境整備(観察歩道の整備) ・ 学校林環境学習(植物の観察、樹木・植物名板設置) ・ 立ち枯れ木伐採 ・ 食害防止ネット巻き ・ 野外音楽堂づくり ・ 植樹活動 				

No	項目	進捗及び平成 24 年度実施内容				
		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
1109	森林の整備・森林資源の利活用の検討	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施	●	→		
<p>平成 24 年度は、日光市森林整備計画に基づく除間伐 189.75ha に対する支援を実施しました。また、間伐材の利活用については、公共施設で使用する木製ベンチの製作などを実施しました。平成 25 年度以降も、同様の事業の展開及び、森林資源の民間利活用についての啓発等を行なっていく予定です。</p>						
1110	日光市職員エコアクション運動の実践	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施	●	→		
<p>県が呼びかける「エコ通勤統一行動（年 2 回）」を市職員に周知し、平成 24 年度は 6 月 13 日及び 10 月 17 日に実施しました。それぞれのエコ通勤実施率は、通常時 5% 及び 7% のところ、行動日は 24% 及び 28% という結果となりました。行動日の取組意識は比較的高く、今後も周知を徹底して、更なる実施率の向上と、通常時の底上げを目指します。</p>						
1111	日光市役所環境配慮率先行動計画の推進	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施	●	→		
<p>平成 24 年度の CO2 排出量は 26,453t-CO2 でした。基準年度である平成 19 年度の排出量 29,832 t-CO2 に比べ、11.3% の削減となっています。節電への厳しい取組等により、平成 26 年度に 10% 削減という最終目標を上回りました。環境基本計画では平成 31 年度に 15% 削減という長期目標を掲げており、これに向けて今後も更なる削減を目指します。</p>						

〔セカンドステップ〕

No	項目	進捗及び平成 24 年度実施内容				
		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
1203	低公害車（エコカー）の普及・拡大	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		検討中	実施	●	→	
<p>平成 24 年度は、市内施設 3ヶ所（今市宿市縁ひろば、日光御幸町第 2 駐車場、湯の郷湯西川観光センター）の EV 用急速充電器に隣接して、普通充電器を設置し、EV のほか PHV の利用拡大を図りました。</p> <p>また、急速・普通充電器の設置補助や、住宅用の自動車用充電コンセント工事補助を実施し、民間主体での充電インフラの普及・拡大を図りました。</p> <p>ほかに、エコカー普及のため、市が率先して庁用車に EV を導入しています。</p>						
1205	市役所の温室効果ガス排出削減	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施	●	→		
<p>平成 22 年度から実施している「日光市役所環境配慮率先行動計画」に基づき、市役所からの温室効果ガス排出を削減しています（詳しくは前出「日光市役所環境配慮率先行動計画の推進」参照）。</p>						

(2) 水の環プロジェクト 水環境の保全と活用 ～水の循環を活かしたまちづくりに向けて～

プロジェクトの目標

良好な水環境を保全しながら、保全活動を通じての交流を活発化するとともに、水環境の情報発信を図るなど、豊かな水資源を有効に活用する。

○指標

奥日光の清流保全

1) 奥日光環境保全事業の推進、奥日光清流清湖保全協議会活動への支援

		現状値 (単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1.コカナダモの除去等による水質浄化対策(機械刈取り)		3 日	5	4	7			拡大検討
2.奥日光第2期計画目標	1.湯ノ湖	2.4 COD	2.2	2.3	2.4			2.0
		0.41 窒素量	0.38	0.33	0.39			0.40
		0.022 有機リン	0.013	0.014	0.017			0.020
	2.中禅寺湖	2.7 透明度m	3.8	2.9	2.7			3.6
		1.2 BOD	0.9	0.8	0.9			1.0
		1.9 COD	1.2	1.3	1.6			1.6
		0.007 有機リン	0.005	0.004	0.004			0.005
		8.0 透明度m	9.3	8.0	8.6			10.0

BOD: 微生物が水中の有機物を分解するときに消費する酸素量
COD: 薬品を使って測定する消費酸素量

良好な水環境の保全

2) 公共水域の水質の環境保全

1.公共水域の水質の環境基準達成状況	達成		維持	維持	維持			達成・維持
--------------------	----	--	----	----	----	--	--	-------

3) 生活排水対策の推進

1.生活排水普及率	74.4	%	76.9	78	79			77
2.公共下水道水洗化率	87.8	%	89.6	91	92			93
3.合併浄化槽の設置基数	2,729	基	3,017	3,168	3,305			4,340

水の交流づくり(水を守る活動等流域の交流づくり)

4) 水を守るボランティア活動の推進

1.湧水ボランティア数	26	人	31	40	41			50
2.水環境保全活動実施回数	10	回	18	13	16			30

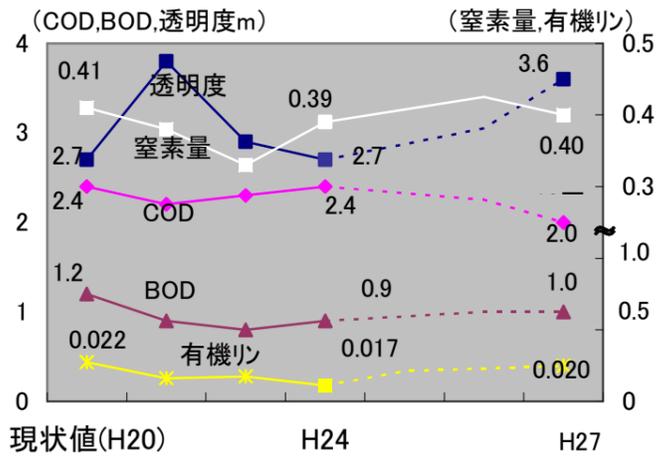
豊かな水資源の活用

5) 豊かな水資源の活用

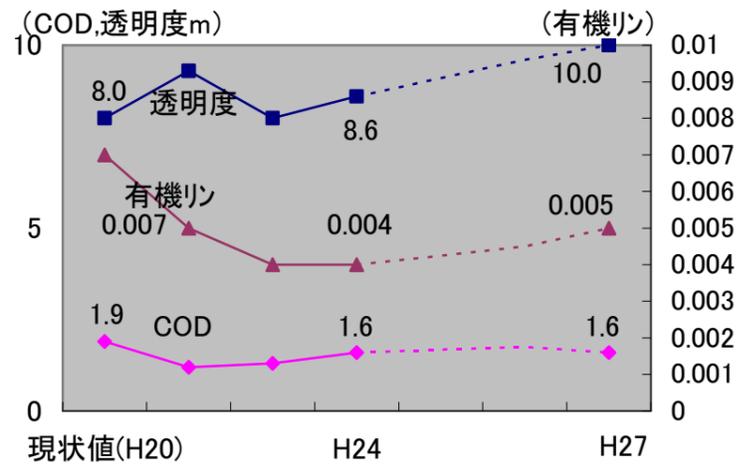
1.おいしい水(水道水)		%	74.0	86	87			全水道で基準達成
2.アクアスポットの整備	29	箇所	29	29	29			39
3.日光の水百選(水資源再発見)				募集中	選定 (114風景)			

※については、平成27年度を目安とした目標値です。

【指標名】 1-2-1. 奥日光第2期計画目標（湯ノ湖、湯川）

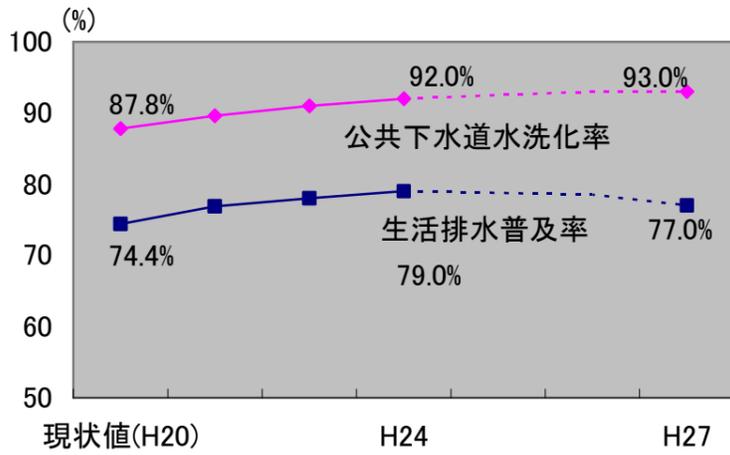


【指標名】 1-2-2. 奥日光第2期計画目標（中禅寺湖）

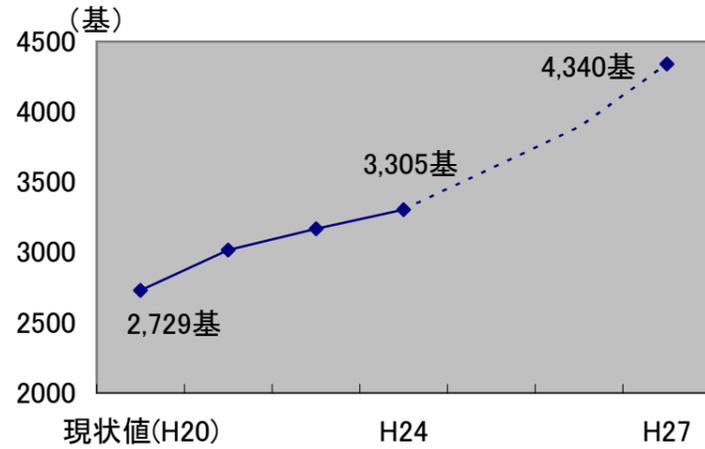


BOD：微生物が水中の有機物を分解するときに消費する酸素量、COD：薬品を使って測定する消費酸素量

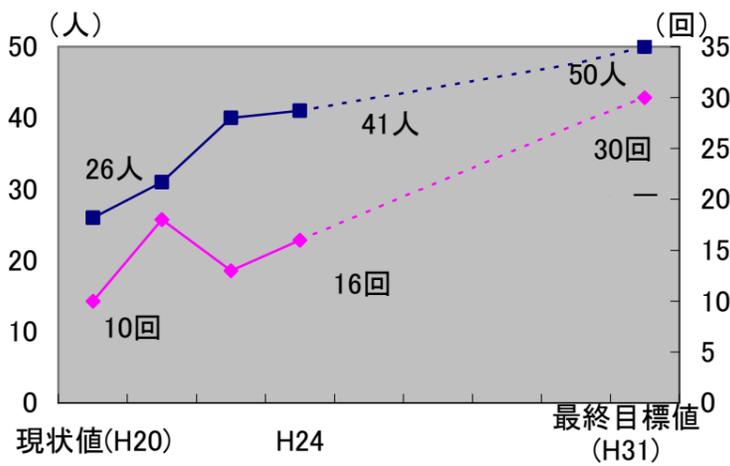
【指標名】 3-1. 生活排水普及率
3-2. 公共下水道水洗化率



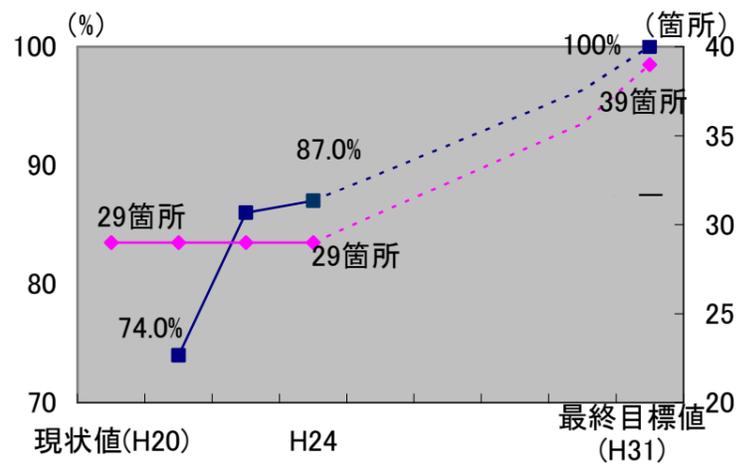
【指標名】 3-3. 合併浄化槽の設置基数



【指標名】 4-1. 湧水ボランティア数(人)
4-2. 水環境保全活動実施回数(回)



【指標名】 5-1. おいしい水(水道水)(%)
5-2. アクアスポットの整備(箇所)



～～ 目標値に対する成果の状況 ～～

奥日光の清流保全や生活排水対策の指標はおおむね良好です。「3-1. 生活排水普及率」は、最終目標値を既に上回っています。水環境のボランティア活動についても僅かずつですが伸びを示しています。ただし、次の指標が低い数値となっています。

・「5-2. アクアスポットの整備」

アクアスポット（市内の水飲み場等の総称）として紹介している数は横ばいで

すが、29箇所以外にも、未紹介となっている水の提供場所が考えられることから、整備と並行して更なる調査及び公表に努めていきます。

○プロジェクト項目別実施状況

〔ファーストステップ〕

No	項目	進捗及び平成24年度実施内容				
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
2101	奥日光清流清湖保全協議会・湯ノ湖中禅寺湖をきれいにする会活動への支援	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●	→	→		
		<p>奥日光清流清湖保全協議会の運営に参画し財政的支援を行うとともに、同協議会の事業である「湯ノ湖水草コカナダモ人力刈取及び湖畔清掃」「水環境学習会（奥日光水辺のたんけん隊）」「奥日光環境学習推進事業（奥日光水環境保全セミナー）」等に対して支援しました。</p> <p>湯ノ湖中禅寺湖をきれいにする会及び奥日光水の会についても、それぞれの団体が実施した湖沼水質保全に係る啓発事業や水質調査、清掃活動等に対して支援しました。</p>				
2102	コカナダモの機械刈取りの推進	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●	→	→		
		<p>県と市の共同事業である4日間のコカナダモ機械刈取りに加えて、平成23年度より市単独事業として、コカナダモの流下防止対策を5月から9月まで行いました。なお、春の人力刈取は、コカナダモの生育不良と震災の影響により中止しました。</p>				
2103	湯ノ湖水質保全対策の検討	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●	→	→		
		<p>県・関係機関と連携し、地元を交え水環境保全事業に取り組んでいる中で、水質の変化と原因究明に努めるとともに随時協議し対応をしているところです。</p> <p>湯元水処理センターでは、高度処理によるリンの除去と併せて平成23年度からは窒素除去装置の本格稼働を開始し、湯ノ湖への排出水の水質向上に努めています。</p>				
2104	事業者排水対策の推進（排水調査・環境保全協定等）	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●	→	→		
		<p>市と環境保全協定を締結している工場や事業場から公共用水域に排出される水を定期的に分析し、公共用水域及び地下水の水質汚濁の防止を図ることにより、市民の健康を保護するとともに、生活環境の保全を図っています。</p>				
2105	生活排水対策の推進（下水道整備・水洗化の促進・合併処理浄化槽の整備）	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●	→	→		
		<p>下水道管渠施設整備を推進することにより、供用開始区域の拡大を図るとともに、供用開始済区域内における下水道未接続世帯への戸別訪問による啓発活動やアンケート調査を実施しました。</p> <p>合併処理浄化槽設置の促進については、下水道認可区域外における設置費補助事業を引き続き実施するほか、補助制度等の周知、水環境保全のための合併処理浄化槽への転換の必要性の啓発を市広報掲載により実施しました。</p>				

No	項目	進捗及び平成24年度実施内容				
	(前頁からの続き)	また、単独処理浄化槽の水環境への影響を考慮し、下水道への接続・合併処理浄化槽への転換を促進するため、平成24年度より単独処理浄化槽撤去費補助制度を新設しました。				
2106	農地・水・保全管理事業の推進	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施	●	→		
		当事業は、農地・農業用水路等資源の基礎的な保全管理活動や農村環境保全活動に対する支援（共同活動）と、老朽化が進む農地周りの施設の長寿命化のための活動に対する支援（向上活動）とで構成されています。平成24年度は、共同活動25団体・向上活動27団体が実施しました。				
2107	湧水ボランティアによる水環境調査	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施	●	→		
		湧水ボランティアの会員数は年々増えており、平成24年度は40名の方が調査を実施しました。調査回数は年4回で、湧水の状況や簡易な水質検査キットによる水質調査も併せて実施しています。				
2108	日光の水百選の選定（再発見）	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		検討中	実施	●	→	
		平成24年度に全114風景を「日光水のある風景百選」として選定しました。 選定した風景を紹介するブックレット（80ページ・オールカラー刷）を2万部作成し、市内小中学校に配布したほか、公共施設や観光案内施設等で無料配布を行っています。 今後は、百選の環境を保全するとともに、環境をテーマとしたエコツアー等への利活用を図ります。				
2109	『アクアスポット』、日光の水百選の普及啓発	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施	●	→		
		平成24年度に選定した「日光水のある風景百選」について、観光部門と連携し更なる周知や利活用を図ります。 また、日光商工会議所が作成しているアクアスポットのパンフレットを観光部に設置し周知を図っています。				
2110	水道水の水質検査の公表、水道水のおいしい水基準の達成	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施	●	→		
		平成20年度より水質検査の公表を開始し、平成22年度からは水質検査計画及び水質検査結果を市ホームページ等で公表しています。 水質検査を実施している52箇所の給水栓はいずれも水質基準に適合しておりますが、おいしい水の基準に適合したものは45箇所にとどまりました。適合していない7箇所のうち、残留塩素濃度超過のみの不適合が4箇所、硬度のみの不適合が1箇所、残留塩素と蒸発残留物の不適合が1箇所、硬度と蒸発残留物の不適合が1箇所となっています。 残留塩素濃度超過による不適合につきましては、注入地点や塩素注入機器の注入量の設定等見直しを行い、おいしい水基準達成を図ります。				

(3) 資源の循環プロジェクト ごみ減量の推進 ~3Rによる資源が循環するまちづくりに向けて~

プロジェクトの目標

環境美化意識を高めて清潔な環境を維持するとともに、ごみの減量化と再生利用を進め、ごみゼロを目指す資源循環型社会をつくる。

○指標

3Rの推進(行政の取り組み)

1)ごみの減量化	現状値	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1.1人1日当たりのごみの排出量	1,177	g/人/日	1,191	1,172	1,196			1,060
2.年間ごみ排出量	39,908	t/年	39,615	38,567	39,246			32,422
3.生ごみ処理機器設置補助数	104	件(累計)	153	172	187			650
2)リサイクルの推進								
1.クリーンセンター等における再生利用率	14.0	%	16.0	15.9	13.6			24.0
2.クリーンセンター等における最終処分率	13.1	%	5.4	4.6	5.8			5.0

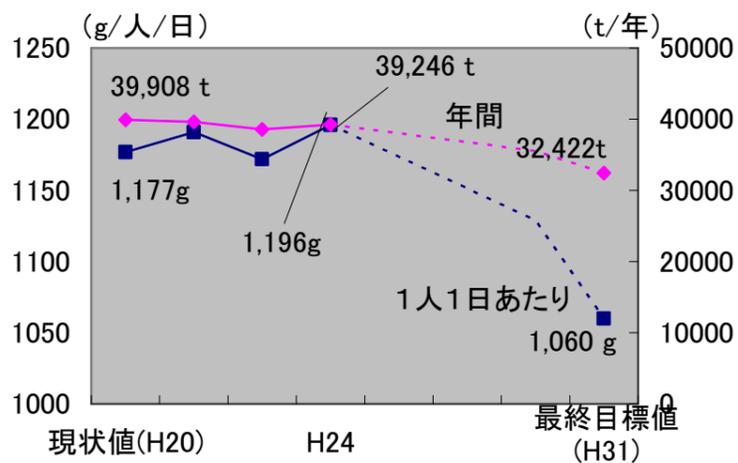
3Rのしくみづくり(市民・事業者の取り組み)

3)エコショップの普及								
1.エコショップ認定の普及	0	店	0	0	0			50
2.資源物回収団体活動	50	団体	49	50	49			100

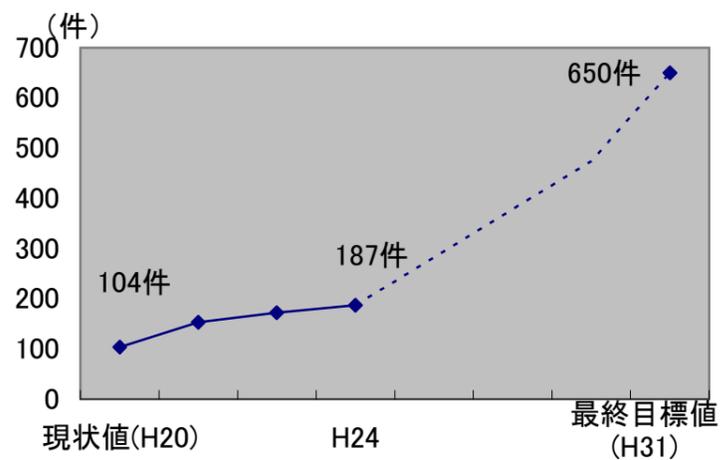
環境交流都市 日光クリーン大作戦

4)全市クリーン大作戦								
1.参加団体数・参加者数	167	団体	242	301	263			250
	19,444	人	19,701	17,353	18,320			30,000
5)クリーンパートナー支援								
1.クリーンパートナー団体数	29	団体	39	41	45			43

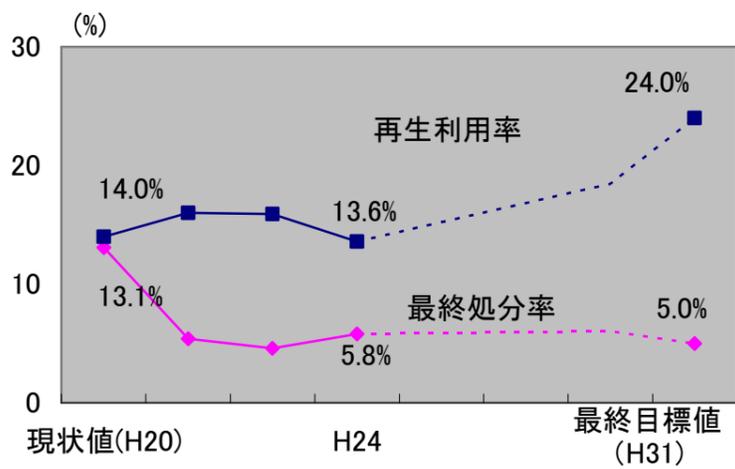
【指標名】 1-1. 1人1日あたりのごみの排出量 (g/人/日)
1-2. 年間ごみ排出量 (t/年)



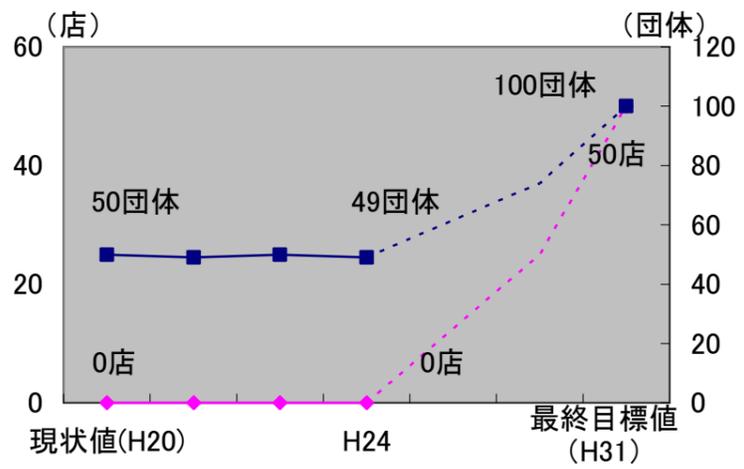
【指標名】 1-3. 生ごみ処理機器設置補助数



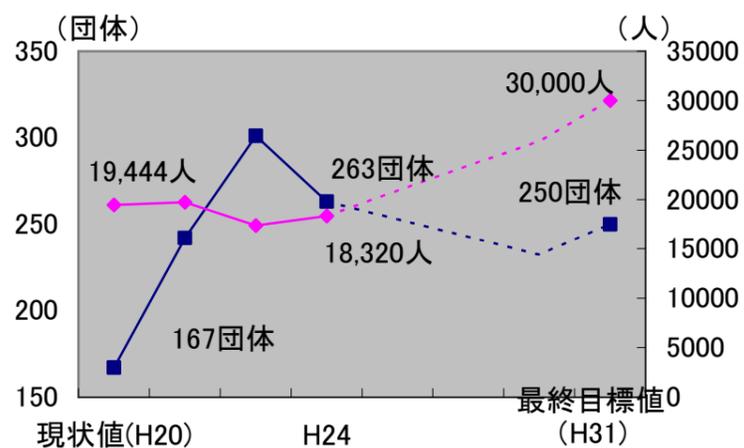
【指標名】 2-1. クリーンセンター等における再生利用率
2-2. クリーンセンター等における最終処分率



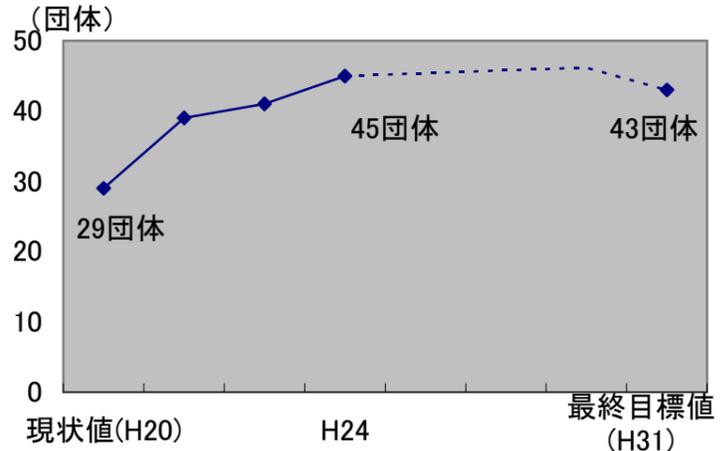
【指標名】 3-1. エコショップ認定の普及 (店)
3-2. 資源物回収団体活動 (団体)



【指標名】 4-1. 全市クリーン大作戦参加団体数・参加者数



【指標名】 5-1. クリーンパートナー団体数



～～ 目標値に対する成果の状況 ～～

全体的に、目標値に対して厳しい状況です。「3-1. エコショップ認定の普及」は、平成25年度中に参加店舗の募集を開始する予定です。次の指標が低い数値となっています。

- ・「1-1. 1人1日あたりのごみの排出量」「1-2. 年間ごみ排出量」

平成24年度はその前年度に比べて景気回復傾向にあり、ごみ排出量が増えました。継続的に減らしていくために、家庭だけでなく、事業者からの事業系ごみの減量についても、呼びかけ等を検討していきます。

・「1-3. 生ごみ処理機器設置補助数」

最終目標値とは大きな開きがありますが、毎年度着実に設置が進んでいます。平成24年度から申請手続きの簡略化を図り、より利用しやすい仕組みとしたので、当面、周知に注力します。

・「2-1. クリーンセンター等における再生利用率」

前年度と比較し、再生利用率が低下しています。これは、本来なら再生利用できる溶融スラグを、埋立て処分ができない飛灰を保管するスペースの確保のために、再生利用せず埋立て処分としたためです。しかしながら、最終目標値とは大きな開きもあるため、ごみの減量とリサイクル量の増加を周知し、再生利用率の向上に努めます。

・「3-2. 資源物回収団体活動」

団体数はほぼ横ばいですが、平成24年度には協力団体への報奨金上限を拡大するなどの対応を図りました。当面は制度普及に努めます。

・「4-1. 全市クリーン大作戦参加者数」

団体数は目標値を上回っていますが、参加者数が横ばいです。より多くの方にご参加いただけるよう、各地区の環境美化委員と協力して周知します。

○プロジェクト項目別実施状況

〔ファーストステップ〕

No	項目	進捗及び平成24年度実施内容				
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
3101	ごみ分別の徹底（紙類の4分別など）	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●	→	→		
		<p>紙類分別を徹底することで、1人1日当たりのごみ量減少と再生利用率の向上が図れることについて、平成24年度においても広報紙による周知を行いました。しかしながら、1人1日当たりのごみ量実績では前年比で24グラム増加（2.0%増加）となっています。</p> <p>引き続き広報紙による周知を行いながら、今後は、事業所等への周知についても検討を進めます。</p>				
3102	生ごみの水切り徹底	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●	→	→		
		<p>生ごみの水切り徹底のため、前年度に引き続き「環境にっこう」を利用し、生ごみの水切りの大切さを周知し減量をお願いしてきたところですが、24年度はごみ量が増加となっています。</p> <p>ごみ減量のためには生ごみの水切りは非常に有効であるため、引き続き周知に努めます。</p>				
3103	マイバッグ運動の推進	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●	→	→		
		<p>スーパーの店頭において、マイバックキャンペーンを実施し、マイバッグの利用を呼びかけました。（計3回）</p>				

No	項目	進捗及び平成 24 年度実施内容				
		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
3104	資源物回収団体の普及	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●————→				
		<p>資源物回収団体の普及のため、「環境にっこう」を利用し制度の周知を行ないました。しかしながら、資源物回収実施団体は平成 23 年度の 50 団体から 1 団体減の 49 団体となりましたが、資源回収量は報奨金の上限を年間 80,000 円から 100,000 円に増額したことにより回収量が増加したものと考えられます。平成 31 年度目標の 100 団体を達成するには厳しい状況となっていますが、平成 25 年度は 5 月に各自治会長へ資源物回収報奨金制度について説明を行い登録団体数の増加を図ることとしました。</p>				
3105	生ごみ処理機器設置費補助の推進	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●————→				
		<p>生ごみ処理機器設置費補助の推進のため、「広報にっこう」「環境にっこう」を利用し制度の周知を行うとともに、コンポストについては、1 回の申請で 2 台まで補助可能といたしましたが、平成 23 年度の補助件数 19 件から平成 24 年度は 15 件に減少となっています。</p> <p>広報等で周知を行った翌月に申請される傾向があるため、平成 25 年度以降は、広報等による周知のタイミングや回数などを検討し補助件数の増加を図ります。</p>				
3106	新リサイクルセンターの再編整備	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●————→				
		<p>平成 24 年度には、前年度から継続しリサイクルセンター内の焼却施設解体を実施しました。その後、この解体跡地に資源物処理施設の整備と資源物等のストックヤード整備と清濁ごみ処理場の解体を行う予定です。</p>				
3107	エコショップ認定制度の検討	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		未着手	検討中 ●————→			
		<p>平成 24 年度は、先進自治体の事例を基に、要綱等の検討を進めました。参加していただく事業所の方々が魅力を感じる内容にするため、現在も検討を行っており、平成 25 年度中に要綱を整備し、参加店舗の募集を開始する予定です。</p>				
3108	クリーンパートナー制度の推進	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●————→				
		<p>平成 24 年度中に 4 件の新規登録申請があり、平成 24 年度末時点の登録団体は 45 件となっています。内訳は、市道対象が 35 件、公園対象が 4 件、市道及び公園・広場対象が 6 件となっています。</p>				
3109	環境美化委員活動の活性化	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●————→				
		<p>環境美化委員 2 年任期の切替時となった平成 24 年度は、全支部において支部会を開催しその中で研修会を実施しました。新規の環境美化委員に対して、制度の目的や役割を説明しました。</p>				

No	項目	進捗及び平成24年度実施内容				
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
3110	全市クリーン大作戦の推進	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施	●————→			
<p>平成23年度に引き続き、平成24年度も6月実施時には不法投棄された可燃ごみと不燃ごみ、10月実施時にはリサイクルセンター、足尾で粗大ごみ、処理困難ごみを対象に実施しました。</p> <p>平成24年度は、平成23年度と比較し参加団体数は減少しましたが、参加人数は増加しました。周知時期を早めたことにより、参加人数の増加が図れたものと考えています。</p>						
3111	ごみのポイ捨て禁止の普及・啓発	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施	●————→			
<p>全市クリーン大作戦やその他の集団清掃により、ごみのポイ捨て防止等の環境意識の高揚を目指しているところです。また、ごみのポイ捨て防止のため、ごみ捨て禁止の看板貸し出しも行い、平成24年度は27枚の看板を自治会等へ貸し出し、ポイ捨て防止に努めました。今後も、クリーン大作戦等の集団清掃やごみ捨て禁止の看板の貸し出しを行う他、広報紙を利用した啓発を行います。</p>						

(4) 環境にっこの輪プロジェクト 環境学習・環境情報 ～豊かな環境交流があるまちづくりに向けて～

プロジェクトの目標

環境教育・環境学習を推進し、環境情報を発信することで、一人ひとりの環境意識を高め、環境保全活動の輪を広げる。

○指標

環境教育・環境学習の推進

1) 環境学習機会の充実

	現状値	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1.日光環境学習センターの整備			実施完了	完了				H22年度整備
2.市民対象の環境学習会開催	26	回数/年	36	41	36			50
3.『こどもエコクラブ』数	2	団体	2	2	3			5
4.環境学習センター来場者数	27,208	人	26,987	20,540	18,692			50,000

環境にっこの輪(情報交流)の推進

2) 市民による環境交流・環境学習事業の支援

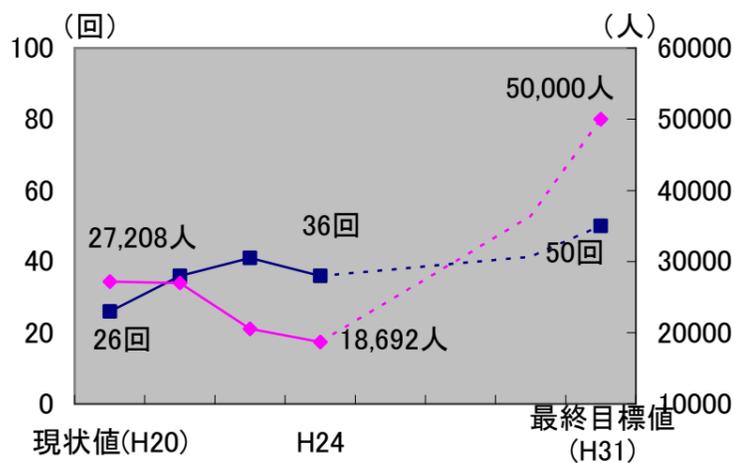
1.(仮称)日光環境会議の設立				未着手	未着手			H22年度設立
-----------------	--	--	--	-----	-----	--	--	---------

環境情報の整備

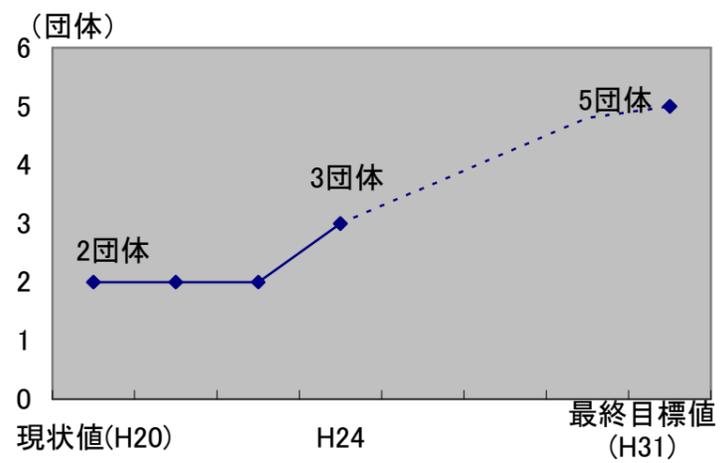
3) 「環境にっこ」等による情報提供

1.環境機関紙「環境にっこ」の発行		発行数/年	4	4	4			4
2.事業者向け環境メール発信事業	17	社	19	19	20			120

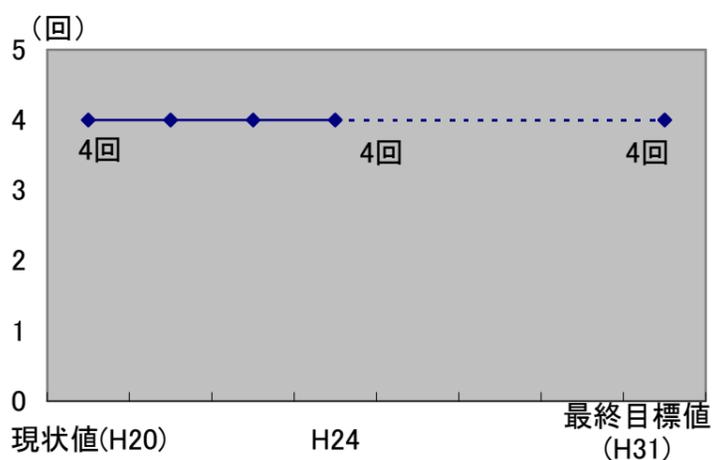
【指標名】 1-2. 市民対象の環境学習会開催（回）
1-4. 環境学習センター来場者数（人）



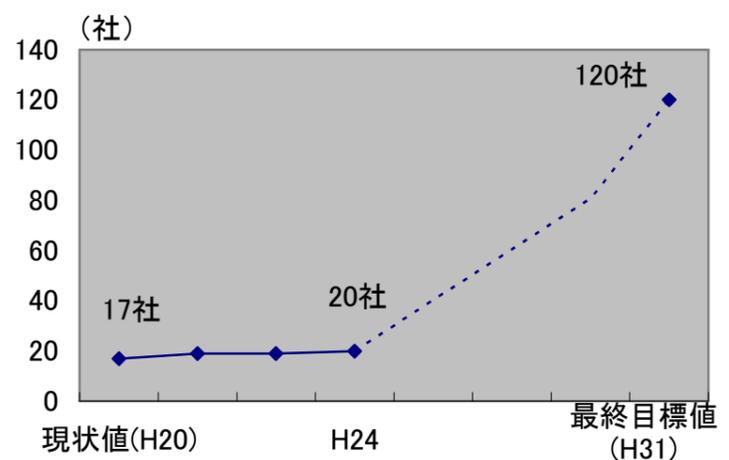
【指標名】 1-3. 『こどもエコクラブ』数



【指標名】 3-1. 環境機関紙『環境にっこう』の発行



【指標名】 3-2. 事業者向け環境メール発信事業



～～ 目標値に対する成果の状況 ～～

順調な指標と不調な指標が混在します。次の指標が低い数値となっています。

- ・「1-4. 環境学習センター来場者数」

来場者数は、日光・足尾両センターの合算で、9割以上を足尾環境学習センターが占めています。風評被害により修学旅行や社会見学での来場がいったん控えられ、それが継続していると考えられるため、今後もPRの強化に努めます。

- ・「3-2. 事業者向け環境メール発信事業」

登録事業者数が横ばいです。商工部門と連携して市内事業者に登録を呼びかけていきます。

○プロジェクト項目別実施状況

【ファーストステップ】

No	項目	実施状況及び平成24年度実施内容				
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
4101	学校間環境学習交流の検討	未着手	●————→	実施		
	市内小中学校で取り組んだ緑のカーテン作成について、各学校のユニークな活動内容や生育状況を収集・公開し、学校間の情報交流を図りました。今後は更に直接的な交流の場を検討していきます。					

No	項目	実施状況及び平成24年度実施内容				
4102	日光環境学習センターの整備	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施	完了			
4103	環境学習指導者の把握と活動支援	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		未着手	実施			
		日光環境学習センターの解説を担当する自然解説員が環境学習指導者の中心的な存在となって、植物観察会や野鳥観察会等、市の環境学習事業と連携して活動していただいています。				
4104	『こどもエコクラブ』の普及	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施				
		平成24年度に1団体5名が新たに登録し、平成25年2月末現在で3団体114名が活動しています。市は地方事務局として、市内小中学校に普及啓発ポスターやリーフレットを配布したり、登録クラブに支援物品や関連資料を配布しています。				
4105	出前講座による環境学習の推進	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施				
		「ひかりの郷にっこう出前講座」事業として、日光市環境基本計画について、平成24年度は1回（30名・成人）実施しました。				
4106	環境保全標語の募集・活用	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施				
		市内中学校から標語を募集した結果、平成24年度は39点の応募がありました。その中から最優秀賞1点、優秀賞5点を選出し、ポスターを作成・掲示し、また「環境にっこう」に掲載することにより、自然環境の保全及び環境美化の促進に係る啓発を図りました。				
4107	環境学習基本方針の策定	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		未着手				
		平成24年度から施行された改正法により、「基本方針」に代わり「行動計画」の策定が努力義務となったため、今後の対応について検討中です。				
4108	(仮称)日光環境会議の立ち上げ	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		未着手				
		現在、県内に環境会議を設置している市町が無く、他県の事例を調査中です。				
4109	「環境にっこう」の発行	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施				
		年4回発行した中で、平成24年度の主な掲載内容は次のとおりです。 ○節電 ○うちエココンテスト ○奥日光の自然保護活動 ○河川水質調査 ○ごみ減量 ○無料廃品回収への注意 ○生ごみ処理機購入費助成 ○野焼きの禁止 等				

No	項目	実施状況及び平成 24 年度実施内容				
		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
4110	事業者向け環境メール発信事業の推進	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●————→				
		平成 24 年度登録事業者数は、前年度から 1 事業者増え 20 事業者となり、情報発信数は 13 回でした。今後は、商工部門と連携しながら、事業所アンケート実施時等の機会をとらえて登録をご案内するなど、登録数拡大に努めます。				
4111	学校向け環境メール発信事業の推進	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		未着手 ●————→ 実施				
		従前から、環境保全標語の依頼等により学校向けの環境啓発を図っていましたが、平成 24 年度から「緑のカーテン設置」の呼びかけや、設置状況の情報交換を行っています。今後も機会をとらえて、各学校に環境情報を発信していきます。				
4112	環境のホームページによる環境情報発信	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●————→				
		環境分野専門のページを設け、随時、最新の情報に更新しています。補助金などの申請書は、ホームページからダウンロードが可能です。平成 24 年度末時点で、9 分野 31 項目の情報を掲載しています。				

3 今後の取り組み

平成24年度に「検討中」「未着手」となっているファーストステップ4項目のうち2項目は、平成25年度中に実施の枠組みが固まる状況にあります。残る2項目はいずれも「環境にっこの輪プロジェクト」の項目であり、取り組みについて検討を進めます。

また、環境問題は、市民一人ひとりの意識の醸成が課題解決につながることから、できるだけ直接丁寧に呼びかけることを継続し、ご理解いただけるよう努めます。

以下、各プロジェクトについて、今後の強化ポイントをまとめました。

(1) 光の環プロジェクト

- 引き続き、住宅用太陽光発電設備を備える家庭が増加しているため、設置補助制度を継続します。
- 市内に設置済みの防犯灯について、平成25年度中には全てLED照明に更新します。今後、新たに設置する防犯灯はLED照明とし、省エネルギーに努めます。
- 日光市庁舎整備指針に基づき、庁舎等を整備する際には、太陽光発電設備やLED照明を積極的に導入します。今後、建て替えを予定している庁舎や消防署に順次適用します。
- 県の「EV・PHVタウン構想」と連携して、EV・PHVが走るまちづくりに積極的に取り組みます。市内の充電インフラ整備及びEV・PHV普及を推進するため、急速・普通充電器及び家庭用充電コンセントの設置に対する補助制度を継続し、周知に努めます。
- 太陽光発電以外の再生可能エネルギー（小水力、バイオマス、地熱等）利用について、実用に向けた具体的な検討を進めます。

(2) 水の環プロジェクト

- 良好な水環境の保全を最優先課題とし、今後も公共用水域の水質が環境基準を維持できるよう、水質の監視を徹底します。
- 奥日光の源流地域の水質悪化は、下流域に大きな影響を与えるため、引き続き地元団体を支援し協力しながら、水質の浄化に取り組みます。
- 小代地区の水田水路に生育する国内希少野生動植物種「シモツケコウホネ」について、安定的な生育を図るため、水路等の環境について専門家による調査を実施したうえで、地元と協力しながら環境保全に取り組みます。
- 平成24年度に選定した「日光水のある風景百選」について、百選ブックレットを配布するほか、専用のホームページを立ち上げ広くPRに努めます。

(3) 資源の環プロジェクト

- 市の年間ごみ排出量は、平成23年度までは順調に減少していましたが、平

成24年度は震災後の経済の回復もあり、排出量が増加しました。再び減少に転じるよう、「環境にっこう」で生ごみの水きり・減量や、分別・資源化の呼びかけをするなど、改めてごみ減量の意識を喚起します。

- 平成25年度中にエコショップ制度の要綱を整備し、参加店舗の募集を開始します。市民に身近な買い物の場面からエコ意識の浸透を図ります。
- 使用済み小型家電の回収・リサイクルを推進する「小型家電リサイクル法」が平成25年度からスタートしました。市はこれに対応し、平成25年度中に試験的に回収を実施し、平成26年度から本格実施する予定です。
- 住居周辺を清掃するクリーン大作戦は、普段特に環境美化を意識していない市民にとって、美化意識を持つきっかけとなる有効な事業です。住民同士の活動の輪も広がることから、引き続き全市をあげて重点的に実施します。

(4) 環境にっこうの輪プロジェクト

- 法改正によって、「環境学習基本方針」に代わり「環境学習行動計画」の策定が努力義務となりました。新たに提示された行動計画について、その策定目的や盛り込む内容、策定に必要な条件（協議会の設置等）を研究しながら、策定の是非を含め日光市としてどのように対応していくか検討します。
- 自然解説員が活動拠点としている日光環境学習センターを中心に、環境教育活動の拡大や他の環境団体との連携を支援します。各団体の情報交換及び連携する場の提供については、法改正を含め取り巻く情勢の変化もあることから、日光環境会議にこだわらず様々な手法を視野に入れ、日光市に適したあり方を検討します。
- 事業者向け環境メール発信や、ライトダウンキャンペーンの参加など、事業者の環境活動への呼びかけについては、商工部門と連携しながら、随時、情報の発信及び活動への理解と協力を依頼していきます。